

イカナゴ情報 No.2 (2017年6月)

平成29年6月26日

稚内水産試験場調査研究部 (担当: 堀本) Tel. 0162-32-7166

宗谷海峡周辺において主に沖合底びき網により6~9月に漁獲されるイカナゴ類¹の漁獲物調査と漁場環境調査の結果についてお知らせします。

漁獲物調査: 2017年6月は体長20~22cmの2・3歳魚が主体

6月の標本測定調査を実施したところ、体長20~22cmの2~3歳魚が主体となっていました(図1)。過去2年では、2015年は漁期初めから体長15~20cmの1~2歳魚が主体であり、2016年はそれらの個体が成長したものが漁獲を支えていました。今年(2017年)は2~3歳魚が主体であることから、昨年(2016年)に引き続いて2015年に漁獲の主体となっていたものが成長して漁獲を支えていると考えられます。

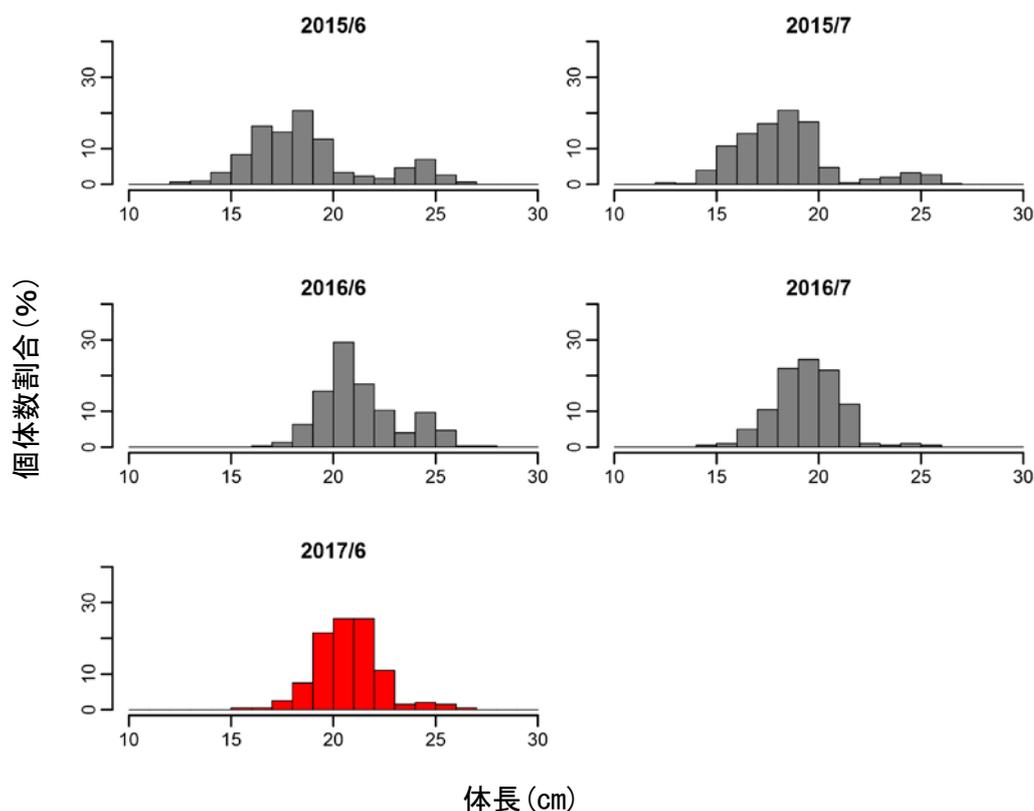


図1. 稚内港に水揚げされたイカナゴ類の6・7月の体長組成(2015年以降).

¹ イカナゴ類にはイカナゴ, オオイカナゴ, キタイカナゴの3種が含まれる (Orr *et al.*, 2015)

海洋観測：水深 60～80 m における底層水温は昨年より低め

宗谷海峡東方海域において 6 月 19～22 日に試験調査船北洋丸によるイカナゴ類漁場の環境調査を行いました（図 2）。

観測ラインの水温断面図をみると、Line A では O15 から IS02（水深 40～60 m）の海域は水温 8℃以上の水塊が占めていました。オッタートロールの主漁場となる IS02 から IS04（水深 60～80 m）の海域は低層水温がおおむね 6～8℃であり、昨年同時期と比較すると 1℃ほど低い傾向がみられました。

Line B でもかけまわしの主漁場である IS10 から IS08（水深 60～80 m）の海域は低層水温がおおむね 6～9℃であり、昨年同時期と比較するとやや低い傾向がみられました。一方で、IS12 から IS11（水深 20～40 m）の海域は水温 11℃以上の水塊が占めており、昨年同時期と比較すると 1℃ほど高い傾向がみられました。

魚探観測：水深 80 m 付近に断続的な魚群反応を確認

海洋観測と同じラインで計量魚群探知機による魚群分布調査を実施しました（図 3）。

Line A では IS03 付近（水深 60～80 m）の海底に断続的な塊状の魚群反応が観測されました。反応の特徴から、イカナゴ類であるかは不明ですが、6 月の漁況は好調なことから、魚探に映りにくい底付近に魚群が分布している可能性があります。

Line B では目立った反応は見られませんでした。

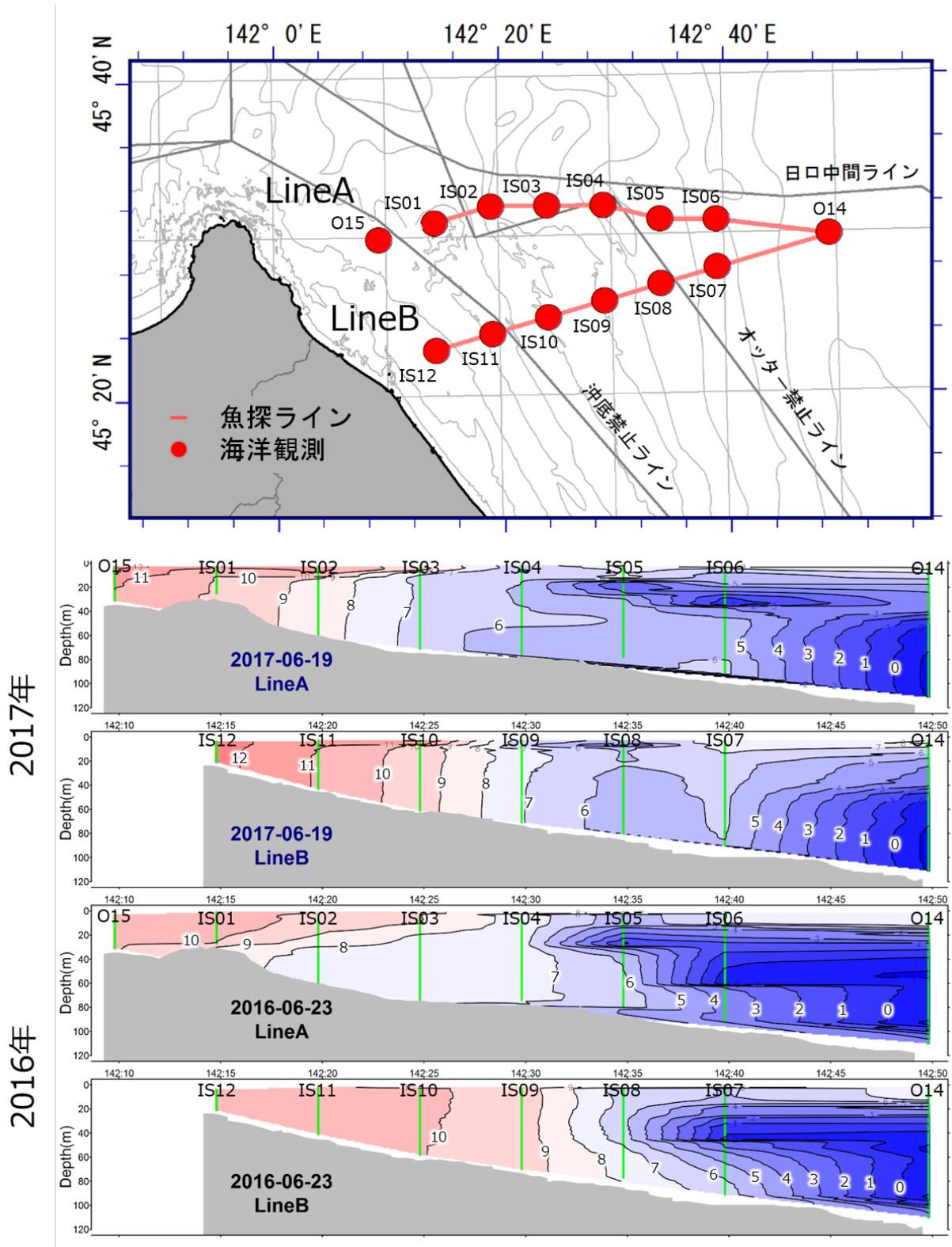


図 2. 海洋観測・魚探観測ラインの位置と水温断面図.

昨年同時期の水温断面図も合わせて示した.

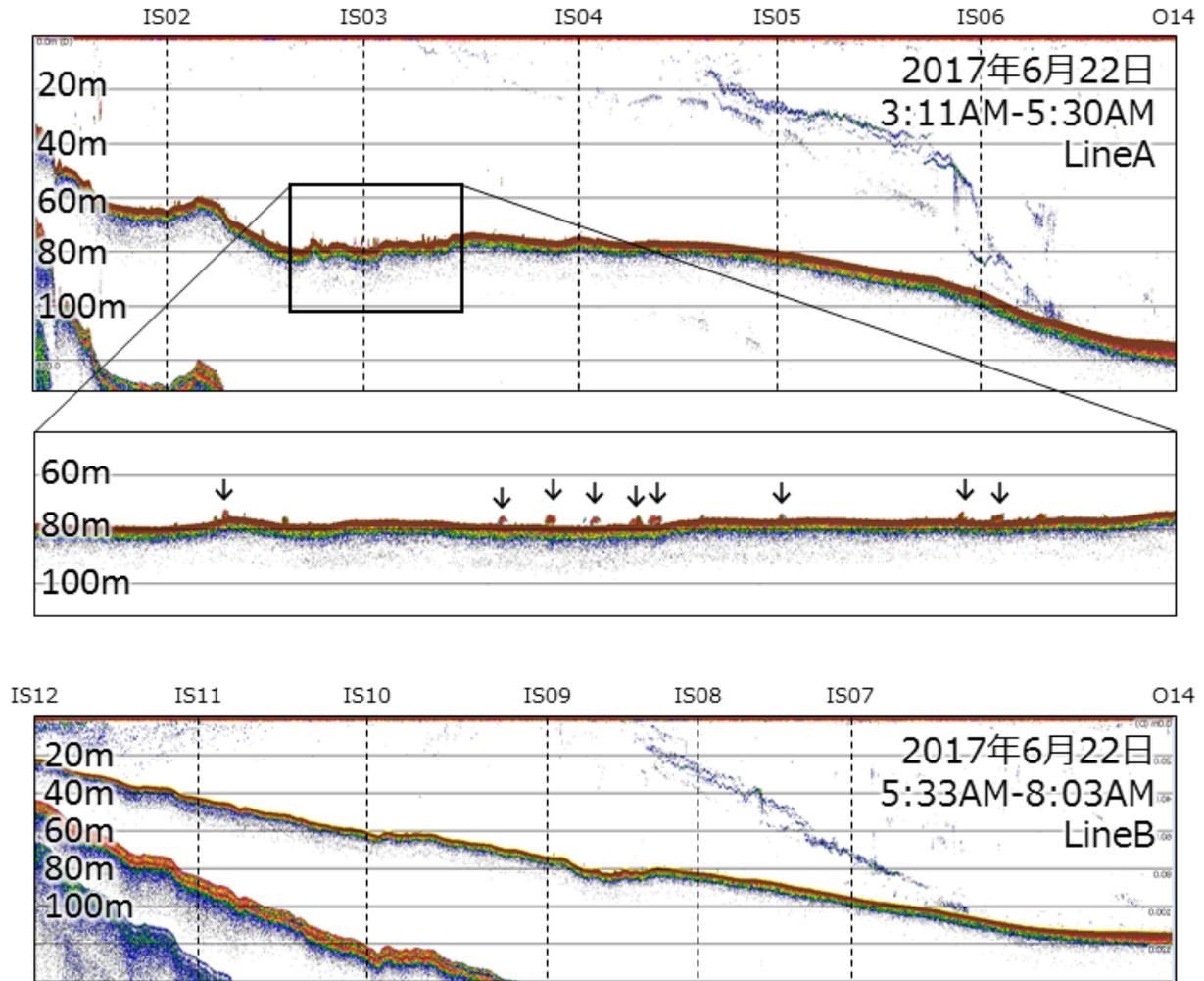


図3. 観測ラインにおける魚探反応. 下図は上図中黒枠内を拡大したもの. 水深80m付近に断続的に塊状の反応(矢印で例示)が見られた.